平成４年度足柄高等学校第１回学校運営協議会会議概要

足柄高等学校の概要について（校長）
学校要覧により説明
○定員の推移について(ｐ.2)
ここ数年７クラス規模で二百数十名。今年度は238名一般、21名特別募集で、今年度は27名の欠員状態でのスタートとなっている。
○居住地別生徒数より（ｐ.32）
707名のうち92.5%が旧県西学区から通ってきている。他地区からの入学生徒をどう増 やしていくかが課題である。

○足 柄 高 等 学 校 の スクールミッションとスクールポリシー（ｐ.４）
スクールミッションは学校が果たすべき使命で、県教委から示されているもの。インクルーシブ 教育推進、地域に根ざした学校として、防災、地域学習、地域貢献もしっかりと取り組むこと等が求められている。又、人の気持ちがわかる、人権感覚を磨くことも大きな使命である。スクールポリシーはどういう能力を伸ばすのか、どういう教育課程を用意しているのか、入学者選抜ではどういう生徒を望んでいるのか等が書かれている「人権感覚、地域に根ざす」がキーワードとなる。

○インクルーシブ教育について
軽度知的障害者に高等学校で一緒に学ぶ道を拓く。平成29年度入学生より6回目の入学生を迎えた。卒業生は3回出しており、7名、4名、18名と推移してきている。現在３学年に15名 、 １ ・ ２学年には各々18名在籍している。各クラス2〜3名で、ティームティーチングや インクルーシブ支援員の支援を受けながら学習に取り組んでいる。一緒に学べ、行事ができた。中学校では考えてもみなかった進路に進むことができたと満足の声も多い。
評価については個別教育計画を立て、個別の到達目標を科目別に用意をしている。また １・２学年は複数担任制、３学年では担任･副担任の体制をとっている。

○進路状況について(ｐ． 33)
大学進学者の数値が学校案内パンフレットでは62.4%となっているが、これは追加合格の数字を含めたものになっている。従来、大学進学率が40%台であること多かったが、去年今年と10%程度ずつ上がってきた。大学から専門学校への進路志望先を変更する生徒が少なかった。
別紙資料によると、大学進学希望者が64.5%で結果が62.0%となっているので、大学 進学を希望していた人は殆ど希望が叶ったと言える。

○耐震補強工事について
南棟の耐震補強工事が昨年８月より進行中、トイレ改修も含め今年の夏休みに元に戻る。

○学校評価について(ｐ．８-ｐ.11）
･教育課程･学習指導について
４月から新学習指導要領が始まったが、昨年度のうちに教育課程作成は終了していた。
学校行事については、コロナの影響で生徒が考えて行う機会が失われてきた。今年は 遠足や他の行事も可能な限り通常に近い形で経験させたい。
･生徒指導・支援について
コロナで部活動への加入率が低かったが、昨年度より加入へ向けて力を入れてきており、５%ほど加入率が上がった。今年も継続している。ホームページの更新により中学生へ情報を発信している。
生徒支援の部分では、本人はいじめとは言わないが、学校に来づらい生徒もいる。家庭、カウンセラーやソーシャルワーカー、外部機関の協力も得て、情報共有していかなければいけない。
・進路指導について
色々なガイダンスにより希望に近い結果となった。今年は安易ではなく、ちょっと努力して少し上を目指させる事が目標となる。特別募集で卒業した生徒が18人いたが、４年制大学１名、短大３名、専門学校３名、就職６名、技術校などが３名、就労支援が２名と全員が進路を決めた。今年度も15名全員の進路を決める取り組みをしている。
・地域との共存について
ホームページの更新を頻繁に行って情報発信をしていくことが目標となっている。昨年度は地域との行事が中止となったが、今年は徐々に復活しつつあるので、生徒たちに多くの場に出ていって活躍してもらい、生徒の達成感にもつなげたい。
防災訓練は地震想定、火災想定の訓練を行っている。土砂災害警戒区域が本校の裏側にある。地震時の避難方

法・避難場所にも工夫が必要である。現状では外部との防災訓練はまだ難しいところがある。
地域学習として昨年度の２年生は横浜への遠足が出来なかったため、代替として南足柄市内を巡って勉強する機会を設けた。 生徒にとっても知らないことが多く、実施する価値があった。また、歴史研究同好会は山北での駅弁販売の歴史研究により高文連より表彰された。

・学校管理･学校運営について
学校をどのように魅力的にするかということについては、昨年度は基礎学力を高めること念頭にスタディーサプリを導入、今年度は 定員割れが大きな問題なので、足柄高校でどのように生徒が楽しく、満足して生活しているかを中学生や保護者へ発信する方法をもう少し考えたい。
学校運営上、インクルーシブをやっている学校なので職員数は多いが、総括教諭が少なくなっているので職員編成の仕方に難しさがある。ティームティーチングが多いので、一人で多くの種類と時間数をこなすという事情があるが、教員はにこやかに授業を行い、生徒は落ち着いて授業を聞いている。
今年が、公立高校改革第３期にあたっているが、どうなるかは全く分からない状況にある。

○意見・質問など（敬称略）

福田委員
進学校ということだが、実情はどうなのかと思っていた。資料により、進学先をしっかりと考えて就職も進学も両方行ける学校になっていることが目に見えて分かった。別件で保護者として、今の１年生からクロームブック等購入させているが、 電子辞書も買わされていると感じている人もいる。パソコン一つで済ませるような取り組みが出来ないか。

関野総括教諭
英語科としては例文が豊富に載っている方が望ましいという判断があったと思う。

福田委員
教員によって使う、使わないの差があるようなら、わざわざ買わなくても良いのでは。

林委員
使用状況の調査、振り返り、フィードバックが必要である。

福田委員
スクールバスの存在が知られていないので、もっと広報してはどうだろうか。

中尾委員
去年まで担任･副担任制で、今年から複数担任制なのか。

校長
インクルーシブ発足当時から１年生、２年生は複数担任制、３年生は担任･副担任制度を採用。３年は進路指導の点から担任に集約した方が良いという考えから担任･副担任制であり、急に変わった訳ではない。

木下委員
大学進学の半分が一般受験ということだが、どのようにして一般受験の合格者が増えたのか。

関野総括教諭
３年になってから頑張らせたのではなく１年のころから一般受験を目指すという意識付けをしてきた。今までは推薦試験が始まると、一般受験から推薦試験に流れる傾向があった。昨年度は意識付け、サポートなどで上手く行ったのではないか。

校長
昨年度弘前大学と MARCH に７人合格。１年から頑張ってきた結果ではないか。

木下委員
総合型選抜や推薦入学など早く決めたいという心理が働く中で、１年から意識付けして結果を出したのは素晴らしいと思う。
個別対応も可能なので西部総合職業技術校へも進路決定前に体験をしにきてもらえたら良いと思う。

中尾委員
定員割れの状況で、学力の差が大きくなってやりにくさが生じてきてはいないか。

校長
定員割れの学校では格差が広がる傾向はあるが、英語・数学での習熟度別２クラス３展開授業を実施してきている。特別募集の生徒だけでなく一般募集の生徒にもやる価値があった。

林委員
インクルーシブの部活動の定着状況はどうか。

髙橋（正）総括教諭
加入率は高くないが、陸上、野球、吹奏楽などの部に加入し活動している。思っていた以上によくやっていけている。

校長
　概ね１８人中１０名程度の比率になると思う。
林委員
　それだけ入っていれば立派。共に学ぶという観点からも今後も支援をしてもらいたい。
村上委員
　３月まで南足柄中学校にいた。インクルーシブの足柄高校に行きたいという生徒は、大きな目標をもって足柄高校を目指す生徒が多い。逆にインクルーシブでない生徒は足柄高校進学後の将来が描けていない生徒が多い。
高野委員
　インクルーシブの進路も充実している。多様性が求められている中で、人権感覚は貴重である。人権感覚を持つ生徒の育成を外に向けて発信すれば学校の魅力となる。
　駅弁の発表は魅力的だがその内容はホームページに載っているのか。
髙橋（優）総括教諭
　報告記事と発表の写真は載っている。
林委員
　年間予定の総探日は聞き慣れないが。
校長
　おととしから実施している総合的な探究の時間のこと。木曜日に実施しているので、それを年間行事の中に入れている。
高野委員
　高校改革第３期に足柄高校も含まれるのか。
校長
　何も分からない。
林委員
　１２年前１６６校だったが、２０校程が減った。今年の秋の改革の内容についてはわからない。
校長
　今年度中に後２回こうした会を予定している。学校運営、経営の状況についてご報告したい。ご質問、ご意見などご協力を頂きたい。１１月頃第２回を予定している。